

調査要項

遺跡名(番号)	山形城三の丸跡(県番号 201-002)		
所在地	山形県山形市春日町		
時代・種別	古代・中世・近世 城館跡		
起因事業	街路整備事業 3・4・25号東原村木沢線 (春日町)		
調査依頼者	山形県村山総合支庁建設部都市計画課		
調査機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター		
現地調査	平成23年4月18日から7月14日まで		
調査面積	550㎡		
調査担当者	調査研究員 草野潤平(現場責任者) 調査員 吉田満 渡邊安奈		
調査成果	検出遺構	堀跡 1	溝跡 8 柱穴 5 土坑 3 石列 1 性格不明遺構 1
	出土遺物	土師器 須恵器 陶磁器 瓦 木製品 銅銭 ガラス瓶	



図1 遺跡位置図(1/25,000)

1 調査の概要

山形城三の丸跡は、霞城公園のある山形城跡(本丸・二の丸、国指定史跡)を取り囲む東西約1,600m、南北約1,800mの城館跡です。文禄・慶長年間(1592年～1615年)に最上義光が三重の堀を構えた城郭として整備したといわれています。

調査区は、平成14～16年度に実施した第1～3次調査区の西側に位置します。平成20年度の第5次調査、平成21年度の第7次調査に続く第8次の調査です。550㎡の調査範囲を5つに分けて行いました(図2)。

2 見つかった遺構と遺物

調査区の西端で、第5次調査で確認された三の丸堀跡の続きが検出されました(写真1・2)。堀跡の縁は東側のみ確認し、検出面からの深さは最深部で約0.9mを測ります。

また堀跡の特徴として、縁が直線的でない点や、底の深さが一定でないことなどが確認されました。堆積土からは、陶磁器や瓦、木製品が出土しました。

近世と考えられる遺構には、15区ちゅうけつの柱穴(写真4)や16区どこうの土坑(写真5)があり、とくに土坑からは内面に鉄絵を描いた折縁瓦おりふちざらなどが出土しました(写真6)。近現代では調査区全体で8つの溝跡が確認されました(写真3)。いずれも用水路として利用されたものと考えられます。

なお近世遺構面より下の黒色土層からは古代の土師器・須恵器が出土し、平安時代以前に人が暮らしていたことが確認できました。

今回発掘調査を実施した結果、三の丸堀跡の一部と柱穴・土坑が確認でき、飯塚口付近の中世・近世の状況が明らかになりました。第5・7・8次調査の整理作業を進め、今年度中に報告書を刊行する予定です。



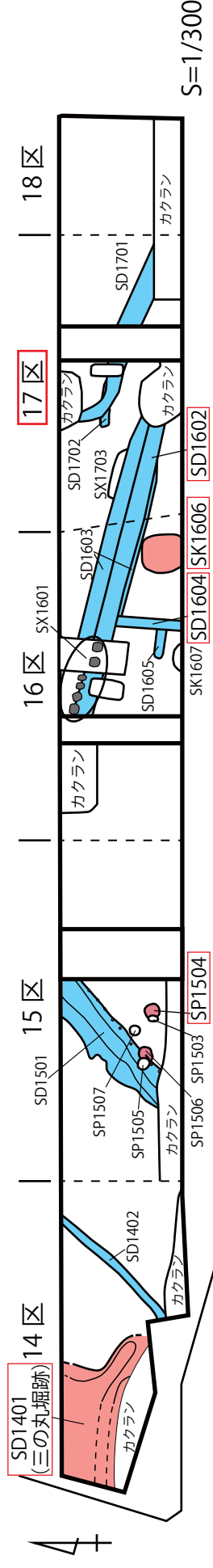
写真1 三の丸堀跡 SD1401(東から)



写真2 三の丸堀跡 SD1401(南東から)



写真3 近現代の溝跡 SD1602・1604(東から)



■ 近世(江戸時代)の遺構

■ 近現代の遺構

■ 石

■ 山形城三の丸跡第8次遺構概略図



写真4 柱穴 SP1504(北から)



写真5 土坑 SK1606(北東から)



写真6 折縁皿 (SK1606 出土)